

1. 基本情報

- テスト日：2026年4月6日
- サーキット名：鈴鹿サーキット
- 車両：YarisCup #5
- エンジン仕様：M15A-FKS (1.5L)
- 使用オイル：MIDLAND Walter SN PLUS 020 TYPE-B
- 粘度グレード：0W-20
- 比較対象オイル：ZHAREN GAIA HYBRID 0W-16
- 気温／路面温度：22°C/34°C
- 走行内容（周回数）：スポーツ走行30分×2本
- 1本目はZAHRENオイル 10周 BestLap 2:45.35s
- 2本目はMIDLAND) 8周 BestLap 2:45.07s

2. 総合評価（サマリー）

本オイルは、低中速域におけるトルク感に優位性を感じ、MIDLAND製の方がドライバーの苦手分野を補ってくれるという観点も含め、鈴鹿サーキットにおいて競争力が高いと感じた。一方で、高回転域ではタイム感度は高くないが回転上昇の軽快さではZAHREN製にも低粘度オイルならではの良さがある。

3. フィーリング評価（ドライバーインプレッション）

■低速域（～5750rpm）

- トルク感：高い
- スロットル応答：良い
- コメント：デグナー2個目の脱出が特に顕著で、あとはダンロップからの立ち上がりなど、3速でやや回転数が低い状態から加速していくシーンで力強い

■中速域（5750～6250rpm）

- 加速のつながり：良い
- エンジンの滑らかさ：普通
- コメント：この領域も力強く加速していく。車を押し出してくれる感じが強い。

■高回転域（6250rpm以上）

- 回転上昇の軽さ：普通
- 伸び感：普通
- 頭打ち感の有無：普通
- コメント：粘度の違いなのか鈴鹿のホームストレートの下りは、2km/hほど、

旧品の方が最高速が伸びました。あと体感的にもこれまで使っていたオイルの方が吹け上がりが軽い感じはありました。(タイムに効いているかは不明)

4. パフォーマンス評価 (客観要素)

- ベストラップ：2:45.116s
- 最高速：176km/h

※ZAHRENオイル使用時の最高速は178km/h(外気温3°C低い状態)

5. 耐久性・安定性評価

- 連続周回時のフィーリング変化：判断難しい(水温・吸気温寄与高い)
- 油温上昇時の挙動：油温センサー非搭載
- フィーリングの一貫性：一貫性あり
- 消耗・劣化の印象：30分のみのため判断難しい

6. コース適性評価

コメント：鈴鹿の場合タイム差が出るのはダンロップ、デグナー2つ目、スプーン立ち上がりと考えられるため、中低速トルクは非常に重要な要素になるので、MIDLAND Walter SN PLUS 020 TYPE-Bの方向性は優位性があると考えられる。

7. 改善提案・開発フィードバック

- 鈴鹿ではそこまで気にならなかったが、今後FSWなどでのレースも想定すると、高回転域のフリクション低減の検討余地はあるかもしれない。

9. その他

今回MIDLAND Walter SN PLUS 020 TYPE-Bを使ってみたところ、神谷さんがヤリスカップカーのオイル選びは中低速のトルクが大事と言っていたのは理解できました。

今シーズンの当面の予定は4月の鈴鹿、5月の十勝スピードウェイ、それ以降はリザルトと予算次第で、岡山もしくは十勝に参戦予定。(関西もしくは北海道シリーズにフル参戦)

最終戦のグランドファイナル@FSWへの参戦も狙っていきます。

鈴鹿に関しては次の走行がレースウィークとなります。

5月の十勝は金曜日に30分×2回、土曜日に30分×2回、日曜日の予選決勝というスケジュールのため、比較的走行時間に自由度ありますのでテストの時間に活用可能です。

よろしくお願ひします。